

2008年10月29日

発表者：新日鉄ソリューションズ(株)

代表取締役社長 北川 三雄

2009年3月期第2四半期決算説明会Q&A(要旨)

.....
Q：今回起きた不採算案件について、発生理由や下期の見込みを教えてください。

A：いろいろな要因はあるが、主として、仕様不確定やお客様と当社の間での認識不一致などに起因している。これまでも開発環境整備や標準化など生産技術力強化には力を入れてきたが、今回の要因には基本的な部分も含まれているため、今一度基本に立ち返り、リスク感度向上のための小集団活動などを行っている。
今回の案件に関して、不採算となったフェーズ/契約については、納品・検収・経理処理が9月末までに完了した。下期に向けては、経営に影響を与えるような大きな不採算案件が発生しないよう努力したい。

.....
Q：新日鉄向けビジネスの今後の見通しについて教えてください。

A：足元、新しい設備投資に伴うシステム更新、また全社管理システムの更新・構築などの大型案件がある。今着手しているものには、来期以降も中長期的に継続していくものがある。
新日鉄の来年度システム投資については、現段階ではまだ見えないが、堅調な動きを期待している。

.....
Q：受注・売上に関して、他の大手S I e rに比べて弱いように感じるがどうか。

A：円高・資源高等については製造業中心にマイナスに影響し、金融危機については直接・間接的に金融部門にマイナスに影響している。もともと公表していた売上見通しに対しては減収であるが、新日鉄を含めた売上高全体は昨年水準を維持しており、大減速とは捉えていない。

.....
Q：下期以降来期までの受注・売上の感触を教えてください。

A：景況感の悪化・IT投資の減速感は、下期に入って様子をみないとわからないが、決して楽観できる状況ではない。
当社としては、受注改善対策会議でターゲットを決めてリソースをどこに集中して投入するかを再整理するなど受注・売上拡大に向けた努力を行っているところである。

以上